

1 単元 ボールゲームをしよう

2 単元について

(1) 設定理由

- 高等部は、1年生7名、2年生7名、3年生9名の計23名で構成されている。23名とも、運動能力における個人差はあるが、他の生徒の動きを見たり、教師からの言葉かけや補助で体を動かしたりすることができる。
- ボールに関わる興味・関心については、部活動に入ってボールゲームに親しむ生徒から日常のなかでボールを投げたり、けったり、捕ったりした経験がほとんどない生徒がいる。また、積極的にボールに関わり自主的に活動に参加できる生徒から、教師の言葉かけや補助によって活動に参加できる生徒まで実態は様々である。そして、ボールゲームに必要な仲間とのコミュニケーション能力やルールの理解についても生徒の実態は様々である。
- 本実態に関わる学習指導要領の指導内容は「特別支援学校高等部保健体育2段階（1）体づくり運動、いろいろなスポーツ、ダンスなどの運動を通して、体力や技能を高める。（2）きまりやいろいろなスポーツのルールを守り、友達と協力し、進んで安全に運動する」である。また、「小学校の学習指導要領の第3学年及び第4学年のEゲーム(1)技能ウ ベースボール型ゲームでは、ける、打つ、捕る、投げるなどの動きによって、易しいゲームをすることができる。（2）態度 運動に進んで取り組み、ルールを守り仲良く運動したり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。（3）思考・判断 ルールを工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする」の段階であると考えた。
- そこで、本単元では、個人の役割が分かりやすく、前単元のボール運動で身に付けた個々の運動技能で活躍する場面を作りやすい、ベースボール型のボール運動を教材にした。指導に当たっては、生徒の実態に応じたルールを取り入れることで、生徒一人一人が思いきりボールを投げた、けった、走ったという感動を味あわせるとともに、後半のボールゲームでは、チームを固定することで、生徒の中に、作戦や、チームワークを意識させ、自分の役割を果たすことで、チームが勝利した喜びや・感動、仲間を応援したり、応援されたりすることで、仲間に興味を持ったり協力する楽しさを感じてもらいたいと考えた。

(2) 生徒の実態

グループ	氏名等	チーム	応援	投げる・捕る	ける	走塁	学習態度・行動特徴など
A	A	B 2	○	○	◎	◎	与えられた活動を楽しみ、さまざまな運動に進んで参加するが、投げる、捕るという動作はあまり得意としない。
A	B	A 2	○	○	◎	○	動作にぎこちなさが見られるが、与えられた活動は熱心に取り組む。
A	C	A 2	△	◎	◎	◎	動作にぎこちなさが見られるが、見通しを持った活動は熱心に取り組む。
A	D	A 2	○	◎	○	◎	走るのは得意ではないが、ボール運動は積極的に取り組む様子が見られる。
A	E	B 2	△	◎	◎	◎	ボール運動は好きで、自信を持って活動に取り組む様子が見られる。
A	F	B 2	◎	◎	◎	◎	積極的に活動に参加しようとするが、勝敗にこだわり、負けることを嫌がる。
A	G	A 2	△	◎	◎	◎	集団活動が苦手で、特定の友達を認められずに批判してしまうことがある。

A	H	A 2	◎	◎	◎	○	指示を聞いて積極的に活動しようとする意欲が見られるが、興奮すると、自分を抑えられずに自ら転ぶ等の行動が見られる。
A	I	A 2	○	◎	◎	◎	運動をすることに対して苦手意識があるが、ゲームの工夫等を考え活動に参加することができる。
B	J	B 2	・	◎	◎	◎	運動は走ることを中心として得意であるが、集団活動は苦手である。
B	K	B 2	○	○	◎	◎	体育の授業に進んで取り組むが、左半身にマヒがあるため動作によっては配慮が必要である。
B	L	B 2	◎	◎	○	○	体育の授業に進んで取り組むが、言語による指示だけでは伝わりにくいことがある。
B	M	A 1	△	◎	◎	○	活動への取り掛かりはゆっくりであるが、教師の動きを模倣して取り組もうとする様子が見られる。
B	N	B 1	○	○	○	◎	自信が持てず活動が止まることが多いが、言葉かけがあれば活動に取り組める。
C	O	A 1	・	△	○	○	運動はあまり得意ではないが、教師の補助を受けて、他の生徒と一緒に活動をしようとする様子が見られる。
C	P	B 1	・	○	○	○	仲間と同じ動きをしたいという意欲はあるが、おしゃべりが多く個別の言葉かけが必要である。手足の可動域が狭く、動作こぎこちなさが見られる。
C	Q	B 1	・	△	○	△	教師や他の生徒の模倣ができ、教師が横で示範をし、見通しがもてれば活動に参加することができる。
C	R	A 1	・	○	○	△	運動をすることは得意ではないが、模倣してゆっくりと活動することができる。
C	S	B 1	△	△	○	△	教師からの言葉かけや促しにより見通しが持てれば活動に取り組むことができる。
C	T	A 1	・	△	○	△	模倣能力に優れているため、教師が横で示範をし、見通しがもてれば活動に参加することができる。
D	U	B 1	・	・	・	・	教師と一緒に活動に参加することができるが、周囲が気になり、活動場所から離れてしまうことがある。
D	V	A 1	・	△	△	△	一つ一つの動作はできるがルールを理解や仲間と協力して活動することは難しい。
D	W	A 1	・	・	・	・	興味のある活動には教師と一緒に取り組むことができるが、活動したくない時は座り込んでしまうことがある。

チームについて

A・B 1 ルールを簡単にして、教師の支援を多くして運動学習量の確保を目指した生徒の集団

A・B 2 ルールをきめ細かく設定し、生徒同士で協力しあいながら運動学習量の確保を目指した生徒の集団

評価基準について

◎できる ○教師の言葉かけでできる △教師の補助が必要 ・教師と一緒に参加

(3) 目標

グループ	氏名	個別目標	学習指導要領
A	A, B, C, D E, F, G, H I	自らボールを捕る、投げる、けること等をしてゲームに参加することができる。(技能) 自らの役割を全力で行い、友達を応援し、協調してゲームに参加することができる。	(特高) 1段階 (2) (特高) 2段階 (2) (小3・4) E (1) ウ (小3・4) E (2)

		(態度) ゲームのルールが分かり、ゲームに勝つための作戦を考えることができる。(思考・判断)	(小3・4) E (3)
B	J, K, L, M, N	教師の言葉かけにより、ボールを捕る、投げる、けること等をしてゲームに参加することができる。(技能) チームの勝利を意識し、自分の役割を果たし、友達を応援することができる。(態度) 得点の入り方が分かり、勝ち負けが分かる。(思考・判断)	(特高) 1段階 (2) (特高) 2段階 (2) (小3・4) E (1) ウ (小3・4) E (2)
C	O, P, Q, R, S, T	教師の言葉かけにより、ボールを捕る、投げる、けること等をしてゲームに参加することができる。(技能) 自分の役割を果たしハイタッチすることができる。(態度) 決められた場所・方向に移動することができる。(思考・判断)	(特高) 1段階 (2) (特高) 2段階 (1) (小3・4) E (1) ウ (小3・4) E (2)
D	U, V, W	教師の身体補助によりボールを捕る、投げる、けること等をしてゲームに参加することができる。(技能) みんなの近くで落ち着いて一緒に参加することができる。(態度) ゲームの流れに乗って行動することができる。(思考・判断)	(特高) 1段階 (2) (特高) 2段階 (1) (小3・4) E (1) ウ

3 指導計画 (7時間取扱い: 1単位 45分)

- 第1次 個人技能を高めよう 4時間
 第2次 ボールゲームをしよう 3時間 (本時は第3時)

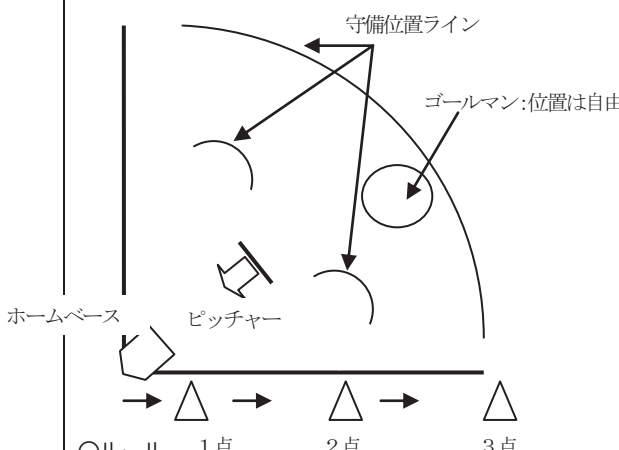
改善テーマ	運動学習量を確保するためのボールゲームの工夫	
	課題点	改善点
	ベースボール型のボールゲームを実施した。攻撃では、守備との交錯を怖がる生徒や、けってから直ぐに走る活動を理解できず、思い切り走ることができない生徒もいた。また守備では、一部の生徒の活動が目立ち、ボールに触れられない生徒がいるので、ゲームの内容の工夫が必要である。	守備、攻撃の場所を分けることで、分かりやすさと安全面を考えた、また守備の人数を制限したり、守備と攻撃の生徒の実態を合わせたりすることで、多くの生徒がボールに触れることができるようにした。

4 本時の指導

(1) 個別目標

- ボールを捕る、投げる、運ぶ、けるなどの運動技能を使い、ゲームに参加することができる (技能)
- 自らの役割を全力で行い、友達を応援し、協調してゲームに参加することができる (態度)
- ゲームのルールが分かり、ゲームに勝つための作戦を考えることができる (思考・判断)

- (2) 準備・資料 ボール (2種類), カラーコーン, ホワイトボード, ビブス, 名前のカード, 得点カード
 フラフープ, 旗, 平均台

時間	学習内容・活動	支援上の留意点
5	1 あいさつをする。 (1)整列する。 (2)始めのあいさつをする。 (3)準備運動をする。 (4)本時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりのあいさつをすることで、生徒が学習の始まりを意識できるようにする。 ・本時の流れを確認することで、学習の見通しが持てるようにする。
7	2 チーム練習をする (1)チームで作戦を話し合う。 攻撃：打つ方向 走塁の仕方 守備：ポジション 補球の仕方 ボールの運び方	<ul style="list-style-type: none"> ・マグネットシートに名前を書いてホワイトボードに貼っておくことで、生徒が自分の打順が分かるようにする。 ・攻撃側のメンバーは打順ごとにベンチに座ることで、自分の順番がすぐに分かるようにする。
30	3 ゲームをする。  <p>ホームベース ピッチャー</p> <p>守備位置ライン</p> <p>ゴールマン:位置は自由</p> <p>○ルール 1点 2点 3点</p> <p>守備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守備位置はピッチャーがボールを投げるまで指定の位置。捕ったボールをゴールマンに渡し得点阻止。 ・ゴールマンの位置は自由に決められる。 ・守備位置、ピッチャーは交代あり。 ・フライキャッチはその場でアウト。 ・守備はグループ内で2つに分かれ交代する。その時に2度目の作戦タイムを行う。 <p>攻撃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピッチャーが転がしたボールをけり、カラ コーンをタッチしながら得点。1つタッチすることに1得点。 ・ボールがラインを割ったらファール。 <p>※A・Bの①のメンバーが試合をするときは、守備位置は自由、ファールはなしとする。</p> <p>※A・Bの②のメンバーが試合をするときは、カラ コーンの距離を長くする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・率先して応援したり、応援するように言葉かけをしたりすることで仲間を応援することを促す。 ・判定や友達に対して自分勝手に抗議する生徒にはカードを提示し、ルールを守ることの大切さが分かるようにする。 ⇒グループA・B・C チームの仲間を賞賛したり、応援したりすることができたか。(態度) ⇒グループD チームの仲間と笑顔でいることができたか。(態度) ・ボールをけった後に直ぐに走ることができるように、カラ コーンをさし示したり、言葉かけをしたりする。 ⇒けった後に続けて走り出せたか。(技能) ・攻撃をした選手には、カードを渡すことで、自分の取った点数がすぐに分かるようにする。 ・多くの生徒が投げる機会を作れるよう、ピッチャーの交代を適宜行う。 ⇒友だちが蹴りやすいよう真つすぐ転がすことができたか。(技能) ・アウトが早く取れるようにするために、守備位置や仲間の良いところを生かせるように言葉かけをする。 ⇒グループA・B 教師の言葉かけや自分たちの考えで <ul style="list-style-type: none"> ○バッターがボールをけったらすぐに走ることができたか。 ○ボールを捕ったら決められた仲間に素早く渡すことができたか。 ○守備位置やゴールマンを決めることができたか。(思考・判断) ⇒グループC・D 教師の身体的補助や言葉かけでルールを守って活動できたか。(思考・判断)
3	4 あいさつをする。 (1)整列をする。 (2)先生の話聞く。 (3)終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動で良かった点を賞賛することで、生徒が本時の活動に対して自信を持てるようにする。 ・終わりのあいさつをチーム同士が向かい合ってすることで、対戦相手に敬意をはらえるようにする。